

## 平成29年度「地域と共にある学校づくり」ボランティア研修会実施報告書

- 1 日時 平成29年10月5日（木） 14:00～16:00
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業関係者（ボランティア、PTA関係者、地域コーディネーター等）、放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）関係者等 計80名
- 4 内容 14:00～14:05 開会  
14:05～14:15 事業説明「地域と共にある学校づくり」について  
人権・地域教育課 地域教育係 指導主事 越尾 直美  
14:15～15:45 講演「もっと子どもが好きになる 地域の支援について」  
関西外国語大学 短期大学部 教授 明石 一郎  
15:45～15:55 質疑応答  
15:55～16:00 閉会

### 5 講演概要

#### ●講演「もっと子どもが好きになる 地域の支援について」

関西外国語大学 短期大学部教授 明石一郎

・2012年5月21日、金環食を観察するために、8時登校を7時登校にした。後で聞いたが、6時前から地域の皆さんが自主的に腕章をつけて、通学路に立ってくれていた。おかげで遅れることなく、怪我なく児童が登校できた。その時、学校というのは子どもと先生方だけでなく、地域の皆さんと保護者の皆さんのお力添えをいただいて、学びと育みがあることを改めて確認させて頂いた。



・学校の教育力の三要素は、不登校傾向のあった女の子の話から学んだ。その子が今までと違い、毎日学校に通えるようになった理由を聞いた。一つ目は「勉強が分かるようになった」こと。二つ目は「仲の良い友達ができた」こと。三つ目は「給食が美味しくなった」こと。「分かる」「繋がる」「暮らす」ということを学校の教育力として大事にしてきた。

・子どもに好かれる大人とはどのようなものか。子どもを好きになっている先生は、何時間でも子どもが輝いている、素晴らしいところを話してくれる。子どもは好きな大人、信頼、尊敬できる大人から学ぶようになっている。嫌いな大人からどんなありがたいことを聞いても忘れる。極めて教育というものは感情的なものがある。知識だけを授けるのが学校ではない。安心と安全、居心地の良さも必要である。

・ボランティアの方は、自由な雰囲気の中で子どもたちと接する。素の子どもの姿で、構えず子どもたちは喜怒哀楽を出す。学級で見ることのできない子どもの姿を伝えていただく、何気ない一言が、学校の力添えになる。

・子どもの学力が上がらない時が三つある。「体の調子が悪い時」「クラスの間人間関係が乱れている時」「家のめめ事、心配事、悩み事」。家での悩み事や心配事がある子どもに、いろいろな面からサポートをして頂けるのはボランティアや地域の皆さんだと思う。

・ボランティア活動の中でとても素敵だと思うことを三つ。「素敵な出会いやふれあいをつくってくれること。」「子どもが自分の事として受け止める学習をしていること。」「正しいことを教えていただくこと。」人間は中身であるということを知ってくださるのは、地域の皆さんだと思う。そのおかげで、地域の誇りや素晴らしさ、そこに生まれ育った地域のありがたさに気付く子どもたちが増えていくのだと思う。

### 6 感想

・笑いと感動の連続でした。教育の基本に戻って教えていただけの貴重な時間でした。先生の温かい人柄が伝わってきました。いろいろな場面で少しでも伝えていきたいと思います。

・経験を基にお話しされており、リアルで子どもの笑顔にとって何が要るのか良くわかりました。家庭の保護者としても身につまされる思いがしました。

・明石先生のお話はとてもよく分かり、ストーンと入りました。私の経験とも合わせながら聞かせて頂きました。今後も今日のようにお話を含め充実した研修を期待します。

